



自分を守る・他人を守る



6 自分を守る・他人を守る

携帯電話やパソコンで電子メールを使っていると、気づ知らずのアドレスから、たのんでもいない広告メールが一方的に、大量に送られてくることがあります。このような迷惑メールにどう対処するかは頭の痛い問題で、電子メールが普及しはじめてからずっと利用者をなやませています。

●知らないアドレスからの広告メールはネットの迷惑●

迷惑メールは、受け取った人にとって迷惑だけでなく、ネット全体にとっても通信量が増えて、大きな負担になっています。近年は法律でも規制されていますが、法律に違反してでも迷惑メールを送りつける悪質な業者は後を絶たず、残念ながら根絶にはほど遠い状況です。

問題 6-1

1. みんなからきられ、法律で規制されているにもかかわらず、迷惑メールを送る人がいなくなるのにはどうしてだと思いますか？



2. 迷惑メールを受け取ったら、どのように対応すればいいでしょう？

●メールアドレスがぬすまれたのでしょうか？●

迷惑メールは1件受信すると、あっという間に1日に数十通も届くようになってしまいます。もしかしたら知らない間にメールアドレスがぬすまれたのかもしれない、と疑う人もいるかもしれませんが。しかし実際には、迷惑メールの業者に、自分からメールアドレスを教えてしまっているケースもかなりあるのです。

例えば、無料ゲームやクーポンがもらえる懸賞に応募するために、空メールをどこかへ送信したことはありませんか？ もちろん空メールで応募するからといって、すべてが悪徳業者ではありません。しかし、クーポンの配布や無料会員の登録、プレゼントの応募などを装って、みなさん自身からメールアドレスや氏名・住所などを聞き出そうとする迷惑メール業者がいるのです。

空メールを送信する前に、信頼できるところから入手した情報かどうか、送信先はよく知っている会社かどうか、そして自分にとって本当に必要なサービスやプレゼントなのかをよく考えてください。空メールを送るだけなのに、やけに「お得」なキャンペーンなど、ちょっとでも「おかしい」と感じたら送信しないほうがいいでしょう。



●メールフィルターを活用しましょう●

迷惑メールの対策を考えてみましょう。

簡単な対策として「メールフィルター」があります。これは迷惑メールを、見る前に処分してくれる機能です。例えば、アドレス帳に登録していない相手からのメールは受け取りをすべて拒否したり、メールアドレスの一部が一致するなどの条件を満たしたメールを自動的に削除したり、迷惑メールとしてふり分けたりできます。

メールフィルターは、携帯電話のメールでも利用できます。具体的な機能や設定方法は、利用している携帯電話会社ごとに異なります。設定を間違えてしまうと、必要なメールまで迷惑メールと判断されてしまいますので、よくわからないときは保護者の方に設定してもらいましょう。

また、迷惑メールを個別に携帯電話会社に報告して、そのアドレスからのメールを止めてもらうこともできます。



メールフィルターは確かに便利ですが、すべての迷惑メールを完全に防ぐことができるわけではありません。メールフィルターを用いても迷惑メールがなくなるときには、メールアドレスを変えることも一つの解決方法です。

問題 6-2

あなたが受け取るメールのうち、必要なメールは残しつつ、迷惑メールだけをうまく取り除くには、どのような条件を設定すればよいでしょう？ 条件を考えてみましょう。

6 自分を守る・他人を守る

●ワンクリック詐欺にだまされない●

迷惑メールをうっかり開いてしまい、本文に書かれていたリンクをクリックするうちに、高額な利用料金を請求する画面がいきなり表示されることがあるかもしれません。

あなたは当社のサイトを利用したので有料会員に登録されました。指定の利用料金を支払わなければならない所定の違約金を請求することはもちろん、裁判などの強硬手段に出ます。

このように実際に利用したわけでもないサイトの高額な料金を請求する詐欺を、「架空請求」といいます。リンクを1回クリックしただけで請求画面が表示されるので、「ワンクリック詐欺」とも呼ばれます。

このような架空請求のサイトに迷いこんでしまったときには、どのように対応すればよいのでしょうか？

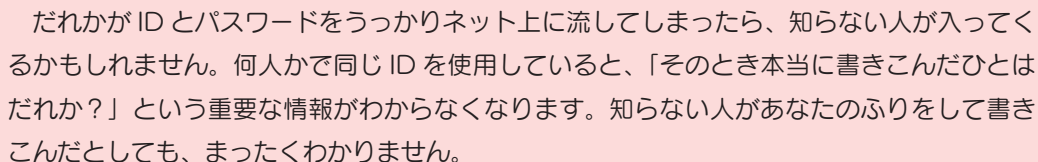
まず、たとえ請求画面が表示されても、有料のサイトだと分かった上で入会したのでなければ、お金をはらう必要はありません。「裁判」「違約金（延滞料）」といった表現もありますが、それはあなたをあわてさせてお金をはらせたり、携帯電話番号や氏名・住所などを聞き出すことが目的です。

中には、携帯電話機の「個体識別番号」（パソコンの場合なら「IPアドレス」）によって利用者を特定できるかのように見せかけて、脅しをかけてくる悪質なサイトもあります。しかし実際には、利用者自身が書き込まない限り、架空請求業者が個人情報を取得することはできません。架空請求に対しては、絶対に返事をせず、そのまま無視してください。



.....

ID とパスワードは仲間だけの秘密だからと安心しているかもしれませんが、ちょっとしたケンカでだれかがパスワードを変えてしまったら、他の人はもうアクセスできなくなってしまいます。事実上の「乗っ取り」です。また、だれかのミスでパスワードが変更られてしまったりすると、だれもアクセスできなくなってしまいます。



そもそもネット上で書きこみできるサービスでは、ID を共有するという使い方は想定されていません。他人のいたずらであっても、最初に ID を登録した人の責任になってしまいます。家族や仲の良い友だちであっても、ID は共有しないようにしましょう。

6 自分を守る・他人を守る

どうしても心配な場合には、その時の様子を細かく書き留めておきます。いつ会員登録をしたのか、会員登録時にどのような画面が表示されたのか、具体的な金額が表示された画面で「承認」をクリックしたことがあるかなどを、冷静に思い出してください。請求時のメールなどが残っていれば、迷惑メールだということを証明するために必要なもので、気持ち悪いかもしれませんが、消さないで保存しておきます。

そして、念のために保護者の方に事情を話した上で、最寄りの消費生活センターに相談するとよいでしょう。

●チェーンメールがやってきた●

チェーンメールとは、「このメールを10人に送ってください。」などと書かれたメールです。古くは「不幸の手紙」とも呼ばれていて、郵便を使っていたはずでした。今は、電子メールに形を変えています。

チェーンメールは、受け取った人が困ったり、不安がったり、パニックになったりする姿を見て喜ぶ、悪質ないたずらです。以前は怖い話を中心でしたが、最近では「このメールを回すと幸せになります」と書かれたものもあります。また「子犬を助けてください」というように、人の善意につけこむものもあります。

よくあるチェーンメールには、次のようなパターンがあります。

- ・怖い話が書かれており、「もしメールを回さないと呪われます。」
- ・良い話が書かれており、「このメールを回すと幸せになります。」
- ・「〇〇に芸能人が来るので、急いで回してください。」
- ・「テレビ番組の実験で、どこまでメールが続くか競争しています。」

なぜチェーンメールはいけないのでしょうか。まず、チェーンメールに書かれている内容が、本当のことかどうかわかりません。仮に最初は本当だったとしても、たくさんの人に転送される間に、おもしろ半分にはウソの内容に書き換えられることもあるでしょう。さらに話をふくらませて、より怖い話をでっち上げる人もいるかもしれません。

メールは、中身を読まなければ用件がわかりません。そのため、受け取った人は、知りたくもない情報を無理矢理読まされることになります。いやな気分になるでしょう。そして、本当かどうかわからない内容のメールを、何も考えずに送ってきたあなたを信用しなくなるかもしれません。

たとえ、そのメールを回すことが良いことのように書かれているメールであっても、何も考えずに転送するということは、自分もそのいたずらの仲間に加わったということになるのです。

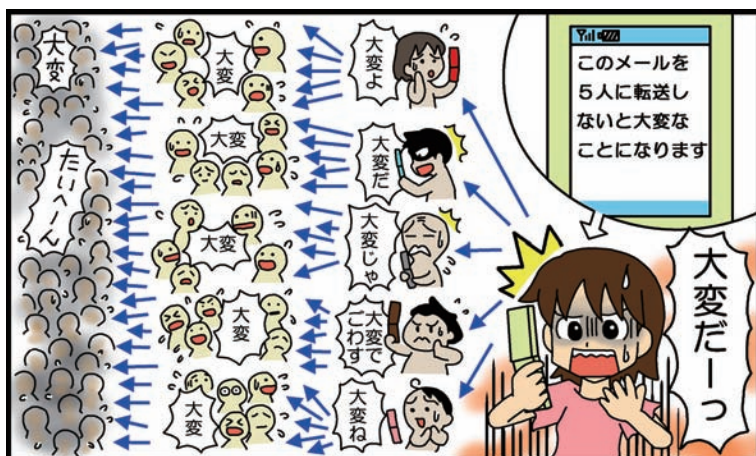
また、チェーンメールという方法の危うさも知っておく必要があります。

チェーンメールに書かれている内容は、もしかしたら本当のことだったり、また善意から始まったことだったり、あるいは悪気のない笑い話だったりするかもしれません。

しかし、その内容を広めるために、チェーンメールという方法を使ってしまうと、必ずしも情報が正しく伝わるとは限らないのです。そればかりか、短時間のうちにものすごい勢いで広がってしまうので、結果的に大量のウソをばらまくことになってしまいます。

6 自分を守る・他人を守る

チェーンメールは、1人が何人にも情報を広めてしまうので、メールの総数がとても多くなります。たとえばチェーンメールを受け取った人が、10分間に5人の人に必ず転送するとしましょう。すると、10分で5人、20分で30人（最初の5人+次の25人）……といった具合に広まっていき、90分後には約250万人に、2時間後には約3億人にメールが転送される計算になります。



「このメールを転送してください。」というのが、チェーンメール独特の手法です。「転送してください」というメールを受け取っても、何も考えずに友達に転送してはいけません。まずその内容が本当かどうかを、よく考えてみます。

受け取ったメールの内容が本当かどうか自分で判断ができないときには、保護者や先生など大人の意見を聞いてみましょう。

自分で調べられる人は、本文の一節（たとえば人の名前や地名などを含む文章）をインターネットで検索してみるのもいいでしょう。同じメールを受け取った人がいれば、これはチェーンメールだよ、と報告しているはずです。

また、あなたが知った本当のことでも、「今すぐだれかに転送してください」といったチェーンメールの方法で人に伝えてはいけません。

チェーンメールは、あなたの知らないところで限りなく広がり続けます。もし、その情報が間違いだったり、もう必要なくなったので転送を止めたいと思っても、もう直したり止めたりする手段はありません。

「間違いでした」というメールをもう一度流せばいい、と考える人もいるでしょう。しかし、自分が間違っただけでもないのに、わざわざ「前の情報は間違いでした」と人に伝えてくれる人はそれほど多くありません。

おそらく「間違いでした」というメールは、最初のメールほどには広がらないでしょう。結果的に、間違っただけの情報だけが残り、そのままどんどん広がっていくことになります。

用語解説

迷惑メール

受信者の同意を得ないで無差別かつ大量に送信される広告メールのこと。スパム（spam）メールともいいます。

空メール

題名や本文を書かないメールのこと。メール配信の登録やキャンペーンの応募^{おうぼ}などに広く利用されています。送るだけでこちらのメールアドレスを伝えることになってしまうため、後になって迷惑^{めいわく}メールが届く原因となる可能性もあります。

個体識別番号

個々の携帯^{けいたい}電話機ごとに、携帯電話会社が他と重複しない形で割りふっている番号のこと。NTT ドコモでは「i モード ID」、au では「EZ 番号（サブスクライバ ID）」、ソフトバンクでは「端末シリアル番号」と呼ばれています。これらの番号は、サイトの「かんたんログイン」機能（ID とパスワードを入力しなくてもログインできる機能）などに利用されています。

個体識別番号の中には、個人情報はありません。しかし一方で、機種変更や解約をしない限り変わらない固定の番号であるため、例えばこの個体識別番号とセットになった氏名・住所などが知られてしまった場合、携帯^{けいたい}からサイトにアクセスしただけで、利用者がだれかを特定できるのではないとも言われています。

IP アドレス

コンピュータ間のデータ（パケット）を送受信する機器を判別するための、識別番号のこと。通常、パソコンやルータなどのネットワーク機器をインターネットに接続すると、インターネットサービスプロバイダ（ISP）に割りふられている IP アドレスの中の 하나가、ネットワーク機器に割り当てられます。しかしたとえ IP アドレスが特定されたとしても、そこからはサービスプロバイダ名や地域名（都道府県名）などがわかる程度で、氏名、住所、電話番号、メールアドレスなどを特定することはできません。

消費生活センター

商品やサービスなど、消費生活^{せんぱん}全般に関する苦情や問合せなどの窓口となる機関。都道府県ごとに設置されており、専門の相談員が消費者からの相談に乗ってくれます。